

# 視察研修報告

総務厚生常任委員会・教育経済常任委員会

## 総務厚生常任委員会 京都府南丹市

世木地域振興会

### 集落の教科書 作成・配布

京都府南丹市日吉町・世木地区は、4集落・298世帯・人口709人・高齢化率44.01%である。ここでは、古くより伝わる慣習・ルールを、良いこともそうでないことも全て「集落の教科書」としてまとめ、移住者や移住希望者に配っている。地域側の「これは知っ」として、移



住者側の「これは教えておいて」など282項目取り上げ、「強いルール」「ゆるいルール」「消えつつあるルール」「慣習や風習」の4つの基準に分け、イラストで分かりやすく表現している。移住者にとっては、地域のルールが細かいところまで説明してあり、生活に役立ち、コミュニケーションも取れているとのことだった。地域活動に参加し、地域と共に暮らしていくのが重要だ。この「集落の教科書」により、細かい気配りで互いの話し合いができ、相互理解が生まれ、地域も盛り上がり、いくと感



世木地域振興会拠点施設

## 京都市北区

社会福祉法人グループ「リガール」

### 8 社会福祉法人が 共同で設立

小さな法人には、人材の確保・育成・研修や、時代が求めるサービスの実践と適切な経営管理などの課題があり、その解消を目指して設立したが、社会福祉法人グループ「リガール」である。

グループ化できた要因は

1. 老朽改修や、地域展開の戦略情報共有への期待
  2. 法人二施設の規模では、人材確保と定着、地域展開などの課題（研修・開発等の専門人材の不足）
  3. これからの厳しい経営環境に向かうための機能強化
  4. 同規模の法人が共同で行うことへの安心感
  5. 社会福祉法人に求められる役割に対し、真摯に考える仲間と共同できる安心感
- 休暇等、労働条件の改善と標準化、総務機能の統合、介護用品等の共同購入、運営の共同システム化が実現した。



8 法人でのグループ化成功に感心したが、飯南町では経営母体が異なるため、更なる研究が必要と感じた。その他にも、東大阪都市清掃施設組合のストーカ炉を視察した。

広大なブドウ畑



ワイン醸造施設



ブドウ畑を視察



### 教育経済常任委員会 福島県二本松市

6次産業化への取り組み

二本松市は、二本松市と伊達郡の東和町・安達町・岩代町が合併して誕生した。東和地区の人口は約5000人。福島第1原発事故による土壌汚染を克服しながら、地域振興に取り組んでいる。

### 酒飲み仲間の 夢を実現

地域の酒飲み仲間8人が夢を語り合う中で、ワイン醸造を思い立ちました。翌年3月、福島第1原発事故により、放射性物質が広範囲に拡散し、将来が全く見通せない状態になった。

「地域に元気を取り戻したい」との思いで、ブドウの苗を植えるとともに、市とワイン特区申請に向けた協議を始めた。ふくしま農家の夢ワイン(株)を興し、苗の成長を待った。社屋工場は、放棄されていた共同稚蚕飼育所の建物を自分たちの手で改装した。ワインの初醸造を行ったが、



すぐに完売した。平成26年に6次産業化整備支援事業を導入し、製造設備などの拡張を行っている。

二本松市は、耕作放棄地再生利用緊急対策事業を導入し、事業拡大を支援している。この事業のほか、市単独予算で耕作放棄地再生事業を行っており、農地の再生や土壌改良の他、種子や苗の購入経費にも助成を行っている。

本町においても、耕作放棄地の拡大が予想され、その再生や他の作物への取り組みを促すような政策が必要と感じた。

### 東和 季の子工房

とっわ  
きのこ工房

東和地区太田の山中にある、宿泊のできる農家レストラン。代々養蚕農家だったが、生糸産業の不振からなめこの栽培に転換を図り、40年あまり周年栽培をしている。

現経営者は蚕小屋を改造し、宿泊のできるイタリアンレストランで、なめこを使った創作料理を提供している。

4世代が一緒に住み、時々の時流に合わせた事業展開により、力強く生きていく姿に感銘を受けた。多くを望まず、田舎に生きることの贅沢さを感じることができた。



なめこを使った創作料理